

利 用 上 の マ ナ ー

1. 大雪山を次世代に引き継ぐため、自然保護に努めましょう。

大雪山の原始的な自然環境は、次代に残すべき貴重な財産です。この豊かな環境を守るため、自然保護に努めましょう。

2. 動植物の採集や野生動物への餌やり等は止めましょう。

ここは、国立公園や天然記念物に指定されていて、動植物の採取は法律で禁止されています。また、生態系への悪影響を防ぐため、ペットの連れ込みなど野生動物を脅かす行為や、餌を与えることは止めましょう。

3. 登山道・野営指定地以外への立入は止めましょう。

特に高山帯の植物は、踏み付けなどに弱く、衰退すると回復するまでに長い時間が必要です。植生保護のため、登山道や野営指定地以外への立入は止めましょう。

4. ヒグマに注意！十分な予備知識と慎重な行動を心がけましょう。

大雪山は、全域がヒグマの生息地であり、何時でも遭遇の危険があります。万一に備えて、ヒグマの習性や対処方法を身につけ、山中では慎重な行動を心がけましょう。

5. 「クリーン大雪！」ゴミは必ず持ち帰りましょう。

大雪山では、『持ってきた物は全て持ち帰る、持ってこない物は何一つ持ち出さない』をスローガンに「クリーン大雪運動」を展開しています。ゴミは必ず全て持ち帰りましょう。

6. 携帯トイレの使用を心がけましょう。

大雪山では、トイレは限られた場所にしかありません。環境への悪影響や水質汚染を防止するため、携帯トイレの使用を心がけ、使用後は、ペーパーも含め必ず持ち帰りましょう。

(携帯トイレは、ビジターセンターや、登山用品店などで購入することができます。)

7. 登山用ストックは保護キャップを着用しましょう。

近年、登山用ストックの利用者が増加していますが、鋭い先端によって植生の衰退や、登山道の荒廃を加速しています。ストックを利用する場合は、先端に保護キャップを着用しましょう。

8. 登山は自己責任が原則です。事前の情報収集に努め、遭難事故を防止しましょう。

登山による事故は、最終的には自己責任に委ねられます。事前に天候や、登山道の状況などの情報収集に努め、自分の技術と体力に合わせ、安全登山に心がけましょう。

9. 万一に備え、必ず地図とコンパスを携行し、登山計画書又は入山届けを出しましょう。

近年、道迷い等による遭難事故が多発しています。登山には必ず地図とコンパスを携行するとともに、雨具や防寒具、非常用食料など最低限の装備は用意しましょう。また、万一に備え、登山計画書を提出するか入山届けに記入しましょう。

10. 登山は、譲り合いの精神で、他の利用者の迷惑にならないよう心がけましょう。

狭い登山道や休憩箇所では、譲り合いを心がけ、避難小屋や野営指定地では他人の迷惑とならないよう静かに行動しましょう。特に団体登山は、騒がしくなりすぎたり、場所を占拠したりしないように注意しましょう。

11. 融雪期・降水時等の登山は自粛しましょう。

融雪水や激しい降雨により、登山道は浸食を受け荒廃します。更に登山による負荷が荒廃を加速します。事故防止のためにも融雪期や荒天時の登山は自粛しましょう。

12. 管理者(自然保護官・森林官等)の指示は遵守しましょう。

大雪山では、環境省の自然保護官、林野庁の森林官、自然保護監視員、森林巡視員等、山を管理している人がパトロールをしています。これらの管理者から指導や指示を受けた場合は、速やかに指導や指示に従うようにしましょう。